



グループホームは、私たちの「夢」でした
現在、太陽の家には、21歳から62歳までの11人が通所しています。どの人も、重度の身体と知的の障がいがあり、家族も将来に不安を

持っていました。
このグループホームの計画は、ここを社会福祉法人にする前から、考えていました。それは、以前、通所していた人の親で、彼をグループホームへ入所させた

作業所の隣に、グループホームの建設が始まりました。
来春、春の日差しが降り注ぐ部屋に、明るい声が響きます。

社会福祉法人「太陽の家」理事長 坂井久三さん

重度の障がい者でも、自立した生活が送れるグループホームの建設が「夢」でした。

いという夢半ばで亡くなった夫婦がみえ、その人たちのために、どうしても（グループホームを）建てたかったのです。

建設には、いろんな制約があり、計画は進みませんでした。例えば、県のグループホームの建設補助の前提としては、自力で地域の社会参加できる人が、その対象と考えられていました。

ここに通っている人のように重度の障がい者には、自力で社会参加など、ほとんど現実的ではありません。しかし、たとえ重度の障がい者でも、自立した生活はあこがれだと思いました。



箱折り／開所以来続いています。丁寧に、でも一つでも多く作ります



今年は、マツケンサンバに挑戦。大好評です



笑顔が絶えません



ボカシの袋詰め／品質には、自信があります。みんなで丁寧に作っていますから

品質に自信があります

「EMぼかし」



EM（有用微生物群）ぼかしは、有機物を発酵させる働きがあり、家庭用生ごみをたい肥化します。

「太陽の家」や「Green bird」、JAめぐみの（市内の一部支店）で販売しています。

※問い合わせは、太陽の家まで

市の協力もあり、県や国と何度も話し合った結果、ようやくご理解いただき建設できることになりました。
資金面などから、一時は建設をあきらめようかと思いましたが、この機会を逃したら、いつ「夢」が実現できるかわからないため、建設に踏み切りました。
今は、グループホームができるという期待と（運営が成り立っていくのかという）不安が交錯しています。グループホームの運営は厳しいと思います。しかし、保



グループホームの完成予想図

護者の高齢化などを考えると前に進むしかありません。

ヒューマン

最初は、障がい者の言動や行動に、戸惑うことが多かったですが、次第に変わっていくのがうれしかったです。



太陽の家
元指導員
渡辺幸子さん

昭和57年に太陽の家が設立された時から11年ほど、在職しました。
こちらに勤める前までは、保母の仕事をしていましたが、障がい者のお世話をすることは初めてだったので、言動や行動に戸惑うことが多かったですね。どう指導したらよいのか、悩んだこともありました。
そこで、まず心掛けたことは、彼らの話を聞いてあげることでした。そうしたら、一人ひとりに笑顔が出てきて、明るくなってきたことが、とても印象深く残っています。
「この良いところは、身



開設間もないころの様子

体障がい者と知的障がい者が、一緒に作業など行っていたことで、出来ないことを助け合うことを学んでいたと思います。
平成5年に、退職しましたが、通所者と離れ難く、太陽の家の隣にある「福祉の店」の店番をボランティアでお手伝いしています。